

## 女性 の 曲 り 角

中 村 圭 子 (化学・生化・OB)

所用で久しぶりに本郷のキャンパスを訪れ、帰り路に友達の研究室へちょっと顔を出してみた。相変わらず、薬の匂いがしみこんであちこちに孔のあいた実験着で動きまわっていた彼は、同じ部屋で実験をしていた女子学生を紹介してくれたあと、最近は、昔と違って東大の女子学生もかわいくなったでしょう。」とつけ加えた。昔の方に属している人に向けて「昔と違って」もないものだといさゝか憤慨しながらも、やはり客観的事実は認めざるを得ない。

十数年前一と文学的(?)表現をしておくが一には、女の子が東大の理科系へ入学するということがそもそも社会一般の通念からみて普通のこととはいえなかった。親は、そんな所へ入るとお嫁に行けなくなると反対し、近所からは変ったお嬢さんとみられた。そんな雰囲気の中で、やはり東大へ入って勉強した

いと思えば、キュッと口を結んで頑張る必要があった。自ずと顔もきつくなつたに違いない。最近では事情はまったく変わってしまい、噂によればおむこさん探しの場として入学してくる人もいるとか、そうなればニコニコと和やかな顔の方が向いていることになる。

たゞ、私がこゝで云いたいことは、大学へ入る所あたりまでは、あまり抵抗がなくなつたけれど、その先本当に自分がやりたいことをやって行こうと思うならニコニコ顔ばかりはしてはられないということである。真剣に、しかもかなり早い時期に自分の生き方をきめることが必要だと思う。

誰が云った言葉かは忘れてしまったが、「40を過ぎたら、人間は自分の顔に責任を持たなければならない。」という有名な発言がある。確かに適切な言

葉だと思うが、私はこれは男性の発言であり、人間と云っても男性の立場を云っている言葉だと思う。

男の子の場合、いっしょうけんめい受験勉強してなるべく評判の高い学校へ入り、無事卒業したら就職、という一応のおきまりの道ができています。就職先が官庁であるか民間会社であるか、または学校の先生になるかというような選択はあったとしても、所詮きまった組織の中へ入り、その中で行動することになる。自由業などという、いかにも自由度の高そうな名前の職業にだって一応の仕組みがきまっています。そんな中で、組織とはどんなものかを学んでいくのが男の人にとっては大切な仕事のようにある。しばらくすると、それまでにどんな仕事ができただかが自分には他人にも明らかになり、どんな方面に向いているか、これから先どんなことがやれるかがだいたい決まってくる。こうなると、自分の責任で仕事をするができるようになり、本当の意味での自分の生き方をきめなければならない。これがほぼ40才位、したがって、40才になったら自分の顔に責任を持つということになるのだと思う。

ところで、女性の場合は少し事情が異なる。先ほども書いたように、最近では大学へ入るところまでは、あまり深く考えずとも進めるようになってきた。けれども、その先の道にはまだ男性と同じようなルールは敷かれていない。

これは、私のたいへんに個人的な考えだが、女性の場合にはやはり、家庭を創りあげてを自分の生活の中心に置くか、社会の中で働くことを中心に考えるかの選択をはっきりする必要があると思う。これは、女性差別のように聞えるかもしれないが、そうではない。これからの社会のありかたを考える時、社会の基本単位としての家庭の重要性はいくら強調してもすぎることはないはずである。だから、暮らしを創造していくという作業は社会全体の進ん

でいく方向に関り合う意義のある仕事になる。“三食昼寝つき”などではなく、暮らしを創り上げていくこと、それを基盤にして社会と結びついていくことの大切さが、今はあまりにも無視されている。そして生活の創造に必要な発想という点では女性の方が男性より優れていそうな気がする。生活のあり方にかなりの重点がおかれるようになるこれからの世の中では、女性の活躍の方法の一つに、家庭を基盤にしたものが大きく出てくるはずだと思う。したがって、積極的な意味で、二つの選択を考えることができると思う。二つの選択といっても必ずしもまったく職業をもたないか家庭を持たないかというはっきりしたものである必要はない。いわゆる仕事と家庭の両立ということはある程度得る。ただ、いざという時、一体自分は何にを最優先させるかということを中心ではっきりさせておくことだと思う。実をいうと私自身、たまたま相手がみつかった時に結婚し、運よくみつかった職業につきという生き方を生きてしまい、かなり周囲に迷惑をかけたと反省している。そう思ってまわりを見まわすと、家庭と仕事についての計画を早くからきちんと立ててきた女性が、生活面でも仕事の上でも成功していることに気づく。

いずれにしても、その選択は20才台の半ばにする必要があるように思う。というのも子供を産み、育てるといふ仕事をするのであれば、これは、社会的にみても、生物学的見地からも20才台半ばから30才台前半に行なうのが望ましいからである。

したがって女性の場合、自分の顔、すなわち自分の生き方についての責任は40才ではなく25才くらいから持たなくてはならない。“25才は女性の曲り角”というのは化粧品会社の広告だが、真実をいっている。